

令和3年度事業報告

新型コロナウイルス感染症が世界中で大流行となり、3月末現在約4億7,000万人を越える感染者が発生し、医療提供体制を初め、社会・経済活動に甚大な影響を及ぼす事態となっている。また、昨年11月末、南アフリカで発生した新型コロナウイルス感染症オミクロン株は、今年初めに国内において市中感染が確認されて以降、2月初旬には1日の感染者数が最大10万人を超える第6波として観測された。まさに予断を許さない状況であり、さらなる新型コロナワクチンの追加接種や一日も早い創薬が望まれる。

新型コロナウイルス感染症拡大の中で、令和2年度から56名の理事による理事会運営、都道府県技師会との連携強化と情報収集、会員への迅速な情報提供等に関して、Web等を最大限活用して実施した。また、当初、計画した多くの事業について一定程度の成果は上げたところであるが、計画された事業内容を縮小又は中止せざるを得なかった。このような状況の中ではあったが、新型コロナウイルス感染症の流行に対応すべく、日臨技に設置した新型コロナウイルス感染症対策本部を活用し、情報収集並びに会員への情報伝達を行うとともに、PCR検査、新型コロナワクチン接種の研修会等の開催により人材確保に努めた。特に臨床検査技師による新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種について、昨年5月に政府から要望があり迅速なワクチン接種を積極的に実施するため、「違法性の阻却」として一定の条件の下で、新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種が認められた。

このことから、日臨技ホームページ上での新型コロナワクチン接種の基礎研修会と都道府県等が実施する新型コロナワクチン接種実地研修を修了した者は、行政が認めた大規模接種会場などにおいて対応してきたところである。

一方、政府は2040年を見据えた医療提供体制の改革として、医療施設の適正配置の実現と連携（地域医療構想の実現）、医師・医療従事者の働き方改革（医師の時間外労働に対する上限規制：2024年）、実効性のある医師偏在対策（目標年2035年）、また、令和3年度においては、コロナ禍における「新たな日常」に向けた社会保障の構築など厚生労働省が重点課題として取り組んできた。

そのような医療提供体制が見直される中、臨床検査の分野では、「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」、「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」の最終報告書を基にした、臨技法等の改正がなされたところである。その対応として迅速かつ適切な研修会の準備などを行い、令和3年度は以下の6つの重点事業の遂行を着実に進めた。

- ① 「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」の報告を受け、法令改正により臨床検査技師に新たに追加された10行為について「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」の開催並びに現行制度下で実施可能な業務を含め医療機関での着実な定着に向けた取り組み。
- ② 「臨床検査技師学校養成所カリキュラム等改善検討会」の報告を受け、臨床検査技師学校養成所指定規則等が改正され、教育内容、臨地実習指導内容、臨地実習指導者

の配置施設での臨地実習が義務化されたことから、「臨地実習指導者講習会」の開催。

- ③ 「日臨技精度保証施設認証制度」の再構築を進め、新制度の2022年度スタートに向け、2021年度精度管理調査結果を基に「日臨技品質保証施設認証制度」のパイロット事業を展開。
- ④ 「生涯教育履修制度」のあり方について、学術組織（支部学術組織含む）、学会運営（支部学会含む）、支部研修会、日臨技認定制度など一連の事業とし、会員の知識・技術の向上及び医療人としての自己キャリアプラン支援事業として再構築。
- ⑤ 日臨技の更なる組織強化と都道府県技師会との連携強化に向けて、理事会開催日前日（年6回）に選出支部単位で理事会事前会議を開催し、理事会の活性化・情報共有と会員への迅速な情報伝達に努めた。
- ⑥ コロナ禍における「新たな日常」に向けたIT技術を活用した事業展開について検討。

1. 公益目的事業 ～ 臨床検査精度保証事業／臨床検査精度管理調査事業 ～

1) 臨床検査精度保証事業

医療法等の一部を改正する法律の改正を受け、検体検査に精度管理責任者の配置が求められたことから、国民に安心安全な質の高い医療を提供する目的で、引き続き品質・精度保証体制の確立に取り組んだ。臨床検査全般にわたる精度管理調査の実施、検査データ標準化、施設認証制度などを一連の事業として位置づけた事業展開を行った。

(1) 品質保証施設認証制度の再構築（新制度構築・啓発）

① 精度管理調査に用いる試料の品質を担保し、安定供給を確保した上で、精度管理調査自体の精確性を保つための体制、倫理審査を含めた評価基準等の整備、精度管理責任者の質の確保、都道府県技師会と連携した是正改善方法などの構築等に取り組み、当該精度管理調査事業の信頼の向上に努めた。

② 「品質保証施設認証制度」の構築

新制度構築・啓発については、品質・精度保証委員会で新制度の骨子を策定し、システム開発に着手した。令和4年6月より新制度に移行することとし、ホームページ、会報 JAMT、支部学会等で広報した。

(2) 精度管理サポート事業（是正・改善・立入調査）の検討

サポート事業は「精度管理サポート事業（是正・改善・立入調査）の検討WG」に紐づく「精度管理責任者育成WG」及び「内部精度管理相談窓口WG」の事業運用に向けた役割について検討した。都道府県技師会精度管理調査担当者との情報交換を行い、サポート事業は都道府県技師会との連携が重要であるという認識で一致し、今後検討に入ることを確認した。

2) 日臨技臨床検査精度管理調査事業

55年以上の歴史のある本事業は、臨床検査の全分野を対象とする国内最大規模の外部精度管理調査事業である。各医療機関における医療の質向上に貢献し、さらに検査法に関する誤差要因の解明や、精度向上につながる各種の提言など多くの実績を残した。

(1) 臨床検査精度管理事業の実施

- ①本年度は、**4,359施設・4,414件**の参加があり、昨年度より**57施設**増加した。3月申込を開始し、6月に調査試料を配布した。施設別報告書及び総括統計表を、8月末にJAMTQCのサイトで公開した。総合報告書を12月上旬にJAMTQCのサイトで公開、令和4年1月中旬には、総合報告書を参加各施設宛に郵送した。
- ②日臨技臨床検査精度管理調査総合報告会を令和3年12月4日（土）に「幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市）」で開催し、全国より**525人**の参加があった。当日は、コロナ禍での開催となり、収容人数を例年の約半数に制限したが、参加者数は昨年よりも増加した。各分野からの報告及び活発な質疑応答が行われた。また、当日の報告会の様子をビデオに収録し、eラーニング上で展開するとともに、新しい品質保証施設認証制度における是正改善に用いるコンテンツとして情報共有した。

(2) 精度管理調査に関わる倫理審査

精度管理調査に関わる試料及び画像データ等、個人情報に関わるものの取扱いについて、当会の基本的な考え方にに基づき、令和3年度精度管理フォトサーベイ部門で使用する画像データについて審査を実施した結果、倫理上問題がないことを確認した。

(3) 内部精度管理相談窓口

新品質保証施設認証制度を創設するに当たり、サポート・是正・改善・立入検査WGが中心となり、令和3年度品質保証施設認証制度審査に提出された是正報告書並びに作業手順書について新品質保証施設認証制度（骨子案）との整合性について検証した。各検査部門における是正報告の記載マニュアルの作成に着手した。

(4) 精度管理調査用試料確保

日臨技精度管理調査並びに都道府県技師会精度管理調査に用いる臨床化学用試料の作製を行った。

(5) 精度管理評価基準の検討

平成19年に発行された「精度管理調査フォトサーベイ評価法に関する日臨技指針」、「精度管理調査定量検査評価法・試料指針」の見直しを精度管理部会で行っ

た。体裁等については、精度管理評価基準検討部会にて継続検討に入った。

(6) 精度管理評価基準検討部会

- ① 当会の精度管理調査項目に導入するための根拠を検討する目的で立ち上げたWG（POCT精度管理調査検討、バーチャルスライドを用いた精度管理調査検討、体細胞遺伝子検査の精度管理調査に向けた検討、FFPE材料を前提とした固定の標準化検討、血球形態標準化、免疫血清甲状腺項目検討、SARS-CoV-2遺伝子検査精度管理検討）の活動及び進捗状況を把握し、具体的な作業指示を行った。
- ② 精度管理調査に新規導入項目として検討していた甲状腺項目（TSH、FT4）を本年度精度管理調査に導入し、POCT（感染症）及び、SARS-CoV-2遺伝子検査項目については、令和4年度に導入することとした。
- ③ 体細胞遺伝子検査の精度管理調査に向けた検討した内容は、厚生労働省「検体検査の外部精度管理調査における組織構築に向けた研究（矢富班）にて報告した。
- ④ バーチャルスライドを用いた精度管理調査検討WGでは、本年度精度管理調査において、トライアル調査を実施した。参加施設からの意見も踏まえ実用化に向けて検討を進める。
- ⑤ 血球形態標準化WGと一般社団法人日本検査血液学会標準化部会の合同で策定した骨髓幼若細胞分類基準に基づき「細胞分化連続画像」のポスターを作成し、会員施設に配布した。

(7) 精度管理責任者育成講習会

当会では、平成30年10月より会員向け、平成31年4月より非会員向けに開講しているeラーニングを用いた精度管理責任者育成講習会は、令和4年3月25日現在、受講申請者3,735名（会員3,660名、非会員75名）のうち1,429名（会員1,382名、非会員47名）が初回コースを修了した。初回コースの修了者向けに更新用コンテンツの作成に着手した。

(8) 都道府県技師会へ日臨技臨床化学試料の提供

提供希望のあった20道府県に「都道府県技師会用精度管理調査 臨床化学試料」を作製した。

2. 学術・職能支援事業

～ 学術・技術振興／学会運営／支部運営／認定／出版 ～

1) 学術・技術振興

将来にわたって臨床検査技師が医療現場や社会で活躍し続けるために、職能団体としての教育研修のあり方、学術組織の再編成や医学検査学会のあり方、出版事業について検討した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けながらも、感染防止対策を徹底

し、可能な限り事業展開した。教育研修では、新たに会員管理システム上にWeb研修システム（オンデマンド）の構築を行い、日臨技主催研修会・講習会（支部含む）でのWeb研修会開催体制を整備し、日臨技が推進する人材育成に力点を置いた事業展開を行った。学会運営について専門学会や研究会とは違った魅力のある日本医学検査学会となるように学会のあり方の検討を開始した。また、自己学修支援システム（eラーニング）を活用した卒後教育の充実や、分野ごとの教育教材の充実及び分野別標準作業書の検討、臨床検査の専門性を生かした医療人としての人材育成などの事業展開を行った。

(1) 教育研修

地域完結型医療に向けた施策が展開される中、医療現場で患者に寄り添い専門性を生かし活躍できる人材育成に取り組んだ。生涯教育研修制度の再構築を継続事業とし、人材育成の一環として、新人教育、各種認定取得、多職種連携医療などの卒後教育をステップアップ型の生涯教育として検討を継続した。また、社会人スキルアップを目指した自己学修支援システム（eラーニング）の活用の推進を継続した。

臨床検査技師養成所教育カリキュラムの見直しに合わせて、臨地実習指導者講習会を支部単位で開催し、令和4年3月現在、498名が受講を終了した。臨地実習ガイドライン2021改訂版の作成、臨地実習受入れ施設の拡充に向けた取り組みなどを進めた。「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進に関する検討会」において、臨床検査技師に対して、新たに追加された10行為を行う場合に受講が義務付けられた講習会「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」を都道府県技師会と連携して開催し、令和4年3月現在、1,961名が受講を終了した。

① 新生涯教育あり方検討事業（新生涯教育制度支援/eラーニング）

日臨技eラーニング「バリューレゾリューション」では、血液検査（骨芽細胞等）の2コンテンツ、医学検査学会講演の5コンテンツ、耳鼻科領域検査技師啓発講習会（第2回）の5コンテンツを学修教材としてアップした。また、例年同様に2021年度精度管理調査総合報告会を分野ごとに閲覧できるように10コンテンツをアップロードした。2月末のeラーニング入会者数は3,250名となった。

② 医療安全管理推進事業

臨床検査関連の医療事故の具体的な解析事例を「日臨技医療安全ニュース」（NO.7～NO.10）としてJAMTマガジンに掲載し、当会会員へ医療安全に対する啓発活動を行った。

医療の安全管理業務を推進するために必要な知識や技能を取得し、医療安全管理者の養成を目的に、厚生労働省が示す、カリキュラム、履修時間に基づく「医療安全管理者養成講習会」を開催した。本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴いWeb開催（厚労省確認済）となった。

○基本コース

10月1日(金)～11月30日(火) Web(オンデマンド配信) 45名

10月16日(土)・11月20日(土) Web(ライブ配信) 42名

○アドバンスコース

12月1日(水)～24日(金) Web(オンデマンド配信) 26名

12月5日(日)・11日(土)・18日(土) Web(ライブ配信) 26名

③職能拡大推進事業

以下の通り講習会を開催した。

○糖尿病療養指導における臨床検査技師の活躍のために(オンデマンド配信)

令和3年4月12日(月)～5月10日(月) 101名

○令和3年度 睡眠ポリグラフ検査(PSG)研修会(ライブ配信)

令和4年2月27日(日) 104名

○臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修(ライブ配信)

令和4年3月13日(日) 22名

○乳房超音波研修会 開催中止

○遺伝子医療技術研修会 開催中止

④チーム医療推進事業(病棟・在宅・認知症含む)

○病棟業務推進事業

医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進にあたり、各医療機関における病棟関連業務の実施状況を把握するための実態調査を実施し、今後の事業展開の資料とした。

・病棟業務推進WG

臨床検査技師による在宅業務の推進のための検討を行った。

第1回 令和3年6月22日(火)

内容:病棟業務推進WGのアンケート結果とまとめについて

第2回 令和3年12月2日(木)

内容:報告書作成と来年度に向けた活動について

○在宅医療への参画推進事業

・在宅業務推進WG

第1回 令和3年7月20日(火)

内容:提言書の最終確認と今年度の活動について

第2回 令和4年3月24日(木)

内容:今年度の活動報告と次年度の活動について

第4回日本在宅医療連合学術大会(7/23～24)シンポジウムにおいて、

「在宅医療を豊かにする技術革新」を発表した。また、会報JAMT

Vol.27No.21～22へ在宅医療の特集を掲載した

○認知症医療啓発推進事業

・認知症WG

第1回 令和3年5月28日(金)

内容:今年度のアルツハイマー月間における活動内容について

第2回 令和3年11月15日（月）

内容：アルツハイマー月間の活動報告について

第3回 令和4年3月11日（金）

内容：次年度の活動と予算について

本年度はアルツハイマー月間に合わせてシンボルカラー（オレンジ色）を25都道府県技師会のご協力により、ホームページに展開した。（会報JAMT Vol.27 No.18に掲載）

⑤災害対策強化事業

「災害対策支援規程」、「災害時支援対策マニュアル」等及び当該規程に基づいた都道府県技師会との「災害時支援協定書」締結のための説明会を令和3年11月25日（木）に開催し、47都道府県技師会と災害時支援協定書を締結した。

⑥臨地実習推進事業

○臨地実習指導者ガイドライン作成WG

厚生労働省の「臨床検査技師養成所教育カリキュラム」の改定に伴い、臨地実習指導者を配置した施設での臨地実習が2022年4月より適用されることから、「臨地実習ガイドライン2013」を改訂し、「臨地実習ガイドライン2021」を作成した。

○臨地実習指導者講習会WGの開催状況

第1回 令和3年6月23日（水）

内容：臨地実習指導者講習会概要と今年度の活動について

第2回 令和3年7月12日（月）

内容：臨地実習指導者講習会開催とグループワークについて

第3回 令和3年8月24日（火）

内容：中央講習会の担当者と講習会の開催運用フローについて

第4回 令和3年9月6日（月）

内容：臨地実習指導者講習会（中央）内容把握と運営に関して

第5回 令和3年10月8日（金）

内容：日臨技（支部）⇔日臨教（養成校）連携フローと担当について

第6回 令和3年10月19日（火）

内容：中央講習会の反省点と次回開催の改善事項について

第7回 令和3年11月12日（金）

内容：支部講習会の開催方法日臨技との連携について

第8回 令和4年2月1日（火）

内容：支部講習会開催進捗確認について

○臨地実習指導者講習会WGの活動

「臨床検査技師養成所教育カリキュラム」の改定並びに「臨地実習指導者講習会開催指針」に基づき、講習会のカリキュラム及び講義資料（Web研修用コンテンツ）を作成し、「臨地実習指導ガイドライン2021」を使用し、「臨地実習指導

者講習会」の中央講習会(ファシリテーター育成) 3回、支部講習会 7回開催した。

令和3年度開催(ファシリテーター)分

開催日	担当	募集人数(名)	修了者数(名)	修了者数累計(名)
2021/10/17	日臨技	18	13	13
2021/10/24	日臨技	47	39	52
2021/10/31	日臨技	47	41	93

令和3年度開催分

開催日	担当	募集人数(名)	修了者数(名)	修了者数累計(名)
2022/2/13	関甲信支部	60	60	153
2022/2/20	北日本支部	60	58	211
2022/2/27	九州支部	60	60	271
2022/2/27	近畿支部	60	55	326
2022/3/06	中部圏支部	60	59	385
2022/3/13	中四国支部	60	58	443
2022/3/20	首都圏支部	60	55	498

- ⑦輸血テクニカルセミナー ライブ配信 令和3年9月18日(土) 337名
実技講習 令和3年9月19日(日) 開催中止

⑧支部研修会

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、Webにて北日本支部8研修会、関甲信支部3研修会、首都圏支部4研修会、中部圏支部8研修会、近畿支部7研修会、中四国支部8研修会、九州支部8研修会を開催した。

⑨生涯教育研修制度(都道府県技師会委託事業)

都道府県技師会への委託事業として、577件の研修会等を委託した。

⑩検体採取等に関する厚生労働省指定講習会

平成27年から開催している本講習会は令和3年度大阪で1回、東京で2回開催し、参加者数は596名であった。7年間で延べ61,108名が受講した。

⑪タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会

オンデマンド配信の基礎講習会に令和4年3月25日現在15,473名が受講申請し、8,658名履修完了した。実技講習会は各都道府県技師会の協力のもとに都道府県単位で開催することとした。

○令和3年8月8日(日)に開催準備のための支部担当者等を対象に、シミュレーション研修会を日臨技会館にて開催した。

○各都道府県技師会実務担当者向け講習会を以下の通り開催した。

- 令和3年9月26日(日) 中部圏支部(愛知県)
- 令和3年10月10日(日) 中四国支部(岡山県)
- 令和3年10月24日(日) 関甲信支部(群馬県)
- 令和3年10月31日(日) 近畿支部(大阪府)

令和3年11月7日（日） 首都圏支部（東京都）

令和3年11月27日（土） 北日本支部（宮城県）

令和3年12月19日（日） 九州支部（熊本県）

- 各都道府県技師会で計26回の実技講習会が開催され、1,961名が修了した。令和4年1月頃からの新型コロナウイルス感染症の再拡大により開催延期を余儀なくされた。

(2) 国際協力

世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、日韓交流、台湾技師会学術交流、IFBLS・AAMLSへの役員派遣はオンラインで行い、海外短期留学制度支援等、現地への派遣を伴う国際事業実施を見送った。

①日韓交流継続、発表者支援

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため現地派遣は中止となったが、大韓臨床病理士協会（KAMT／韓国臨床検査技師会）とライブ配信による代表者会議を開催し、技師会活動、新型コロナウイルス感染症対策などについて意見交換を行った。

- 第59回大韓臨床病理士協会総合学術大会（オンライン開催）

令和3年10月16日（土）・17日（日）

- ・国際シンポジウム 2名
- ・国際学生フォーラム 2名

②日台学術交流

中华民国医事検査師協会（TAMT／台湾臨床検査技師会）との学術交流は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため現地派遣は中止となったが、オンライン開催された。

- 12th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Sciences

令和3年4月11日（土）・12日（日）

- ・国際シンポジウム 1名発表

③IFBLS（世界臨床検査技師会）・AAMLS（アジア臨床検査技師会）への役員派遣

令和3年8月28日BD meetingがライブ配信で開催され、担当理事が出席した。

④海外短期留学制度への支援

ASCP（アメリカ臨床病理学会）との共同による海外短期留学制度への支援については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため現地派遣は中止となった。

⑤発展途上国への技術支援

2017年度から3カ年で国の事業による発展途上国（カンボジア国）への技術支援フォローアップは、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止した。

(3) 会誌発行

臨床検査技師における標準的な知識や技術を網羅した学術誌として「医学検査」を年4回（1月、4月、7月、10月）発刊した。また、J-Stage への掲載も継続した。

(4) 学会運営

会員の学術活動、人材育成などの研究成果を発表し、情報共有とネットワーク構築の場として、日本医学検査学会を開催した。

①第70回日本医学検査学会の開催

（学会長：西浦 明彦、担当：福岡県臨床衛生検査技師会）

令和3年5月15日（土）、16日（日）に福岡国際会議場、マリンメッセ福岡での開催準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け完全Web（オンデマンド、一部LIVE配信）での開催を決定し、5月15日（土）～6月14日（月）の会期で開催した。

また、例年学会に併せて開催している学術奨励賞の表彰式については、学会がWeb開催となったことも踏まえ、事前にWeb表彰式として収録し、動画をオンデマンドサイトにて公開した。

○参加者：7,691名（会員6,961名、学生・賛助会員等730名）

○プログラム：一般演題484演題、教育講演8企画、シンポジウム等36企画、日臨技企画4企画、国際シンポジウム

○オンライン展示：14社

○共催セミナー：14企画

②第71回日本医学検査学会の開催準備

（学会長：高田 厚照、担当：大阪府臨床検査技師会）

令和4年5月21日（土）、22日（日）にATCホール、ハイアットリージェンシー大阪での現地開催に向け準備を行った。

③第72回日本医学検査学会の開催準備

（学会長：井田 伸一、担当：群馬県臨床検査技師会）

令和5年5月20日（土）、21日（日）Gメッセ群馬、高崎芸術劇場での開催に向け準備を行った。

④支部学会

日臨技の事業推進を含め、日臨技の学術活動方針に沿った支部独自の特徴ある内容の学会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けWeb開催となった。

○北日本支部 テーマ：「融和と協調」

～じえねしす・じえねらる・じえねれーしょん～

（岩手県：学会長 行森良一、Web 開催 いわて県民情報交流センター アイーナ）

○関甲信・首都圏支部 テーマ：「創造・進化」TSUKUBA2020+1

～変異や変化に適応すっぺよ～

（茨城県：学会長 池澤剛、Web 開催 つくば国際会議場）

し、他の認定制度は全て同一日、同一会場で実施した。

その他、認定取得者の促進を目的に「自己学修支援システム (eラーニングシステム)」に受験準備のための各認定受験カリキュラム内容のコンテンツ化を進め、会員の自己学修支援の環境を整えた。「日臨技認定センターHP」から登録した会員に対する認定関連研修会内容などのメルマガによる情報発信と共に認定受験申請、更新申請の簡素化を目指したシステムの改修を進め、手続きの簡略化を推進した。医療技術部門管理資格認定制度については更新制度の具体的内容の検討をすすめ、医療管理者資格認定制度の運用開始に向けた体制整備をした。

(1) 各種認定技師制度の運用

認定一般検査技師、認定心電検査技師、認定染色体遺伝子検査師、認定病理検査技師、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師、認定認知症領域検査技師、認定救急検査技師の各認定制度に係る研修会、講習会及び医療技術部門管理資格認定制度の夏季集合研修及び秋季集合研修を全て Web 開催した。

また、各認定試験を実施し、審議会で 60%以上の認定率を目処に合格者を選定し、各認定制度協議会でその結果に基づき認定し、中央認定委員会委員長名において、各合格者及び各認定更新者に認定証を交付した。

新規の認定資格取得者の認定資格有効期間は令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日までの 5 年間とした。

《認定検査技師試験》

認定検査技師名	受験者(名)	合格者(名)	合格率(%)
認定一般検査技師制度	143	80	55.9
認定心電検査技師制度	95	32	33.7
認定臨床染色代遺伝子検査師制度 染色体分野	3	2	66.6
認定臨床染色代遺伝子検査師制度 遺伝子分野	29	19	65.5
認定病理検査技師制度	234	186	79.5
認定臨床化学免疫化学精度保証管理検査技師制度	82	77	93.9
認定認知症領域検査技師制度	43	30	69.8
認定救急検査技師制度	31	26	83.9
医療技術部門管理資格認定制度	20	20	100.0

《認定資格更新申請》

認定検査技師名	更新対象者(名)	更新申請承認者(名)	更新延長(名)
認定一般検査技師制度	146	107	3
認定心電検査技師制度	143	104	2
認定臨床染色代遺伝子検査師制度 染色体分野	4	2	0
認定臨床染色代遺伝子検査師制度 遺伝子分野	9	9	0
認定病理検査技師制度	188	173	9
認定臨床化学免疫化学精度保証管理検査技師制度	59	51	0
認定認知症領域検査技師制度	55	38	2

認定救急検査技師制度	—	—	—
医療技術部門管理資格認定制度	—	—	—

(2) 医療技術部門管理資格認定制度の資格更新審査基準単位の制定、資格更新に向けた資格更新審査基準単位の内容を検討し決定した。令和4年度より医療技術部門管理資格認定制度規則を施行し運用を開始する。

(3) 各種認定取得に向けた学修コンテンツ（eラーニング）の継続作成
これまでにアップしたコンテンツにつき、継続的な利用及び内容の充実化を進めた。

3. 渉外・組織強化事業 ～ 渉外／組織強化 ～

1) 渉外

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、日臨技内に設置した新型コロナウイルス感染症対策本部は、感染拡大の状況等に応じて開催し、情報収集と会員への情報提供を積極的に行った。厚生労働省から支援要請等に応じるとともに、検査実施体制の拡充や臨床検査技師の配置強化などの要望を厚生労働省はじめ関係各所へ行った。

また、医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト／シェアの推進や臨床検査技師学校養成所教育カリキュラム見直しについては、関連団体と連携・協議等を行い体制整備や関連事業を実施した。

その他、診療報酬改定に伴う調査・分析を行うなど会員や国民の目線に立った渉外活動を実施した。

(1) 新型コロナウイルス感染症に対する日臨技の対応

新型コロナウイルス感染症の蔓延に対応すべく、令和2年2月13日日臨技に新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、令和4年3月末までに計46回（今年度は14回）開催し、コロナ禍における日臨技事業運営、事務局体制などの検討を行うとともに、情報収集並びに会員への情報提供を行った。また、令和3年6月に政府方針としての迅速なワクチン接種を積極的に展開するため、「違法性の阻却」として、一定の条件の下で新型コロナワクチンの接種が臨床検査技師に認められたことを受け、行政機関との共同によりワクチン接種の基礎研修会（Web対応）や20余りの都道府県等によるワクチン接種実地研修を進め、行政が認めた大規模接種会場などにおいて接種に対応した。

- 日臨技 新型コロナウイルス対策本部会議の開催 第33回～46回
- 日臨技HP上に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種基礎研修（座学）の構築
- 臨床検査技師による新型コロナウイルスワクチン接種の全国調査（総括）

【新型コロナウイルス感染症のワクチン接種基礎研修（座学）】

○受講申込：10,477名（令和4年3月8日現在）

○基礎研修修了者：8,751名（履修率 83.53%）

【都道府県によるワクチン接種実技講習開催状況】

○開催都道府県：18府県

○総受講者数：1,933名

【臨床検査技師によるワクチン接種の実施状況】

○ワクチン接種の実施県：11県

○接種総数（延べ接種数）：131,752件

○実施臨床検査技師数：1,406名

【第6波によるブースター接種への対応都道府県】

○対応都道府県数：1府2県（京都府、群馬県、千葉県）京都府は3月17日、群馬県及び千葉県は2月11日より大規模接種会場にて対応中

(2) 渉外政策推進事業

新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、新興感染症に対する体制整備の要望として、保健所等行政機関への臨床検査技師配置強化の要望、SARS-CoV-2 検査における外部精度管理調査への財政支援の要望、臨床検査技師の実人員把握のための関係法令の一部改正の要望、医師の働き方改革に資するタスク・シフト/シェア推進のための臨床検査技師病棟配置への診療報酬上の評価の要望、検体検査の品質・精度確保のための要望、不妊治療の保険適用へ向けての体制整備の要望について厚生労働省をはじめ関係各所へ提出・説明した。

(3) 診療報酬改定関連調査

令和4年度診療報酬点数改定として、各都道府県技師会から聴取した改定要望、臨床検査振興協議会との共同により選定した項目及び当会委員会で取りまとめた生体検査関連の項目を合わせた22項目について「臨床検査の診療報酬点数改定に係る要望書」を作成し、令和3年10月1日（金）厚労省保険局長宛に提出した。また、令和4年度診療報酬点数改定の周知を図るため令和4年3月26日（土）に日臨技 Web 研修会システム（1か月配信）とYouTube配信を用いて、厚生労働省保険局医療課担当官等によるビデオ配信での説明会を行った。

○令和4年度診療報酬改定に伴う説明会

令和4年3月26日（土） LIVE 配信

令和4年3月26日（土）～4月26日（火） 申込者数 1,098名

2) 組織強化

(1) 組織対策

組織運営として、日臨技（支部含む）は都道府県技師会との連携強化を図り、会員にとって有益な事業実施のため、理事会等を通じて情報共有並びに迅速な情報伝達に努めた。定款及び諸規程等についての整備を行った。

また、継続事業として計画していた次世代の人材確保と育成を目的とした「初級・職能開発講習会」、「支部学会における中高生向け進路支援」などは新型コロナウイルス感染拡大を受け中止した。「地域ニューリーダー育成講習会」はWebで開催した。

①定款諸規程検討

役員の報酬等及び費用に関する規程、役員の報酬等及び費用に関する規程細則、組織運営規程、表彰規程及び契約管理規程の改定を行い、また、災害対策支援規程、謝金及び旅費の支給に関する規程及び宿泊料及び交通費の支給に関する運用内規の制定を行った。

②中高生向け進路支援

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、中高生向け進路支援ガイダンス並びに臨床検査技師の認知度向上を目的とした「臨床検査技師の仕事」の冊子配布、臨床検査を知っていただく企画等、臨床検査技師養成校との連携企画なども開催する予定であったが、すべて中止した。

③地域ニューリーダー育成研修会の開催、都道府県リーダー育成講習会への支援

○地域ニューリーダー育成研修会

「タスク・シフト／シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」が開始されたことを受け、臨床検査技師へのタスク・シフト／シェアの推進方策について、「意識・技術・余力」の3つのテーマについてグループに分かれて検討し、都道府県技師会を牽引し、日臨技への運営にも携わることができる人材となるスキルの習得を目的に実施した。なお、新型コロナウイルス感染の蔓延防止のためWebで開催した。

開催日時 令和4年3月5日（土）

開催場所 Web 開催

参加人数 都道府県技師会推薦者の42名

○都道府県リーダー育成講習会

本年度の開催申請はなかった。

④職能開発講習会（初級・中級・上級）

新型コロナウイルス感染拡大に伴い講習会は中止した。

⑤各種広報ツール制作

「臨床検査技師の仕事」の冊子を作成し、全国「検査と健康展」等で活用し、臨床検査技師の認知度向上に努めた。また、「入会のご案内」の冊子を作成し、臨床検査技師養成校の卒業生に配布し会員入会促進を図った。

⑥各種調査データ解析事業

令和3年度の会員意識調査及び施設実態調査において、日臨技事業運営に即した情報収集の設問設定等について確認を行い、役員とともに設問等の最終設定を行った。

⑦会員意識調査等

施設実態調査及び会員意識調査を令和3年11月29日(月)から令和4年1月17日(月)まで当会ホームページ上で実施した。施設実態調査の回答率は、7,708施設のうち3,911施設が回答し50.7%となった。また、会員意識調査の回答率は、68,067名のうち16,340名が回答し24.0%となった。

(2) 組織運営

日臨技(支部を含む)と都道府県技師会との連携を強化し、日臨技事業の更なる推進を図った。各事案に対し、迅速かつ的確に対応するため委員会、ワーキンググループ等の会議制を継承し、他団体との対応、会員から提起される問題や改善要求などに対処するとともに、懸案事項や課題について効率的な解決を図った。令和4年度に創立70周年及び法人化60周年を迎えることから、記念事業の一つとして、記念誌の発刊の具体的な内容をまとめた。

①組織の運営

定款、組織運営規程に基づく会議を開催するとともに、隔月で開催する理事会では、委員会やWG、執行理事会議を経た重要案件などについて審議を行った。

- 定時総会1回
- 理事会7回
- 執行理事会議12回
- 支部長連絡会議4回
- 各種委員会、WG、部会

②倫理規程の強化・会員倫理周知徹底

精度管理用の倫理規程(案)をもとに、規程の制定に向けて検討を始めた。

③表彰事業

新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、各表彰者に対してはWeb表彰式を執り行い、第70回日本医学検査学会のコンテンツと一緒に配信した。

- 永年職務精励賞 859名
- 日臨技有功賞 会長賞 受賞者なし
功労賞 受賞者なし
特別賞 受賞者なし
- 地域貢献賞 5名
- 日臨技学術奨励賞
最優秀論文賞1編(1名)、優秀論文賞2編(2名)
最優秀演題賞1編(1名)、優秀演題賞6編(6名)、

特別奨励賞 6 編 (6 名)

結核予防会 結核研究奨励賞 (日臨技推薦) 1 名

○支部学術奨励賞 令和 2 年度支部学会中止に伴い、受賞者なし

○日臨技学生表彰

一般社団法人日本臨床検査学教育協議会加盟校の卒業予定の学生を対象とし、各校から 1 名の推薦により 69 名を表彰した。

④賀詞交換会

令和 4 年の日臨技賀詞交換会は、令和 4 年 1 月 21 日 (金) に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、中止した。

⑤総会

令和 3 年 6 月 26 日 (土)、TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川にて開催した。議決権を有する正会員数 65,832 名に対し、総会出席者数合計 (事前表決、代理出席表決、出席表決) は 40,799 名となり、総会成立のための定足数 32,917 名を上回り総会は成立した。議案 (第 1 号～第 3 号) はすべて承認された。

⑥日臨技 70 周年記念事業

「日臨技 70 周年記念事業 WG」において、式典の開催時期及び創立 70 周年・法人化 60 周年記念誌作成内容の検討、原稿分担決め原稿の提出を受けた。今後印刷業者の選定を行い進めることとした。なお、式典開催時期は令和 5 年度定時総会時に開催する予定である。

⑦執行体制強化

会務の円滑な推進のため、理事会の前日に各執行理事が支部区割り毎の都道府県選出理事と、重要な案件について、内容を共有しながら深く議論を行い、翌日の理事会での活発な議論に繋がった。

⑧広報システム

会員への情報伝達の方法として、適宜ホームページを更新した。会員専用ページのトップページのレイアウト変更及びスマートフォン対応の仕様とした。また、必要に応じて日臨技一斉メールシステムを利用し、会員への情報提供、案内を行った。その他、会員にとって有益なサービス提供のため、会員に対し JAMT アプリ (仮称) の機能 (仕様) についてアンケートを行い、実装する内容をまとめた。

(3) 国民医療向上／安全対策

臨床検査に関する正しい知識の普及、啓発を目的に、国民向け季刊広報誌「ピペット」を発行し、全国の医療機関を中心に配布した。また、11 月の「臨床検査月間」に合わせて全国「検査と健康展」を開催した。

①季刊広報誌「ピペット」の発刊

国民に対して臨床検査並びに臨床検査技師の仕事を広く周知し、社会的認知度を向上させる目的で継続発刊した。令和 4 年 3 月現在、全国 8,662 箇所 (医療機関など) に総数 116,351 部を発送した。

②全国「検査と健康展」開催

臨床検査に関する正しい知識の普及、啓発を目的に、11月の「臨床検査月間」に合わせて、中央会場を含む19府県技師会と日臨技が主催で全国「検査と健康展」を開催した。今年の中央会場は、一般社団法人宮崎県臨床検査技師会が担当し、次のとおり開催した。

○中央会場 開催日時 令和3年11月15日（日）10：00～16：00
 開催場所 ニューウエルシティ宮崎
 参加人数 100名

(4) 就労支援

無料職業紹介事業として、ホームページに求職、求人の運用を行った。

また、昨今、求人・求職情報はインターネット上の検索サイト並びに専門の人材バンクを利用される傾向が高く、当該無料職業紹介所の利用者は極少であることから、令和4年5月31日付けを以って廃止することを決定した。

(5) 事務運営

①事務管理

事務管理として、総務課、事業課、政策調査課の事務所掌及び事務局担当者を明確にし、業務運営の安定化と効率化を図った。事業調書ごとに執行状況を四半期単位で管理し、担当理事と事務局担当者で情報共有と連携に努め、確実な事務運営と適正な予算執行に努めた。

②事務局体制の強化

タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会や臨地実習指導者講習会などの新しい事業への対応を行い、また事務局内での決裁申請や支払申請などをWeb化し、効率性を高めた。

(6) 会員管理

当初予算で見込んでいた会員（会費納入者）数の68,000人に対し、69,038人の実績となった。正会員受取会費は前年度対比約1,379万円増となった。

(7) 日臨技共済制度

臨床検査技師賠償責任共済制度、会務参加中の普通傷害共済制度、臨床検査技師廃業後賠償責任共済制度、研修会等事前参加費返金制度、感染症罹患共済金制度、被災者会費減免制度を継続した。

○支払事例（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

⇒賠償責任共済制度	3件
⇒傷害共済制度	0件
⇒廃業後賠償責任共済制度	0件
⇒感染症罹患共済制度	59件

⇒研修会等事前参加費返金制度 0件

⇒被災者会費減免制度 2件

災害名	所属県	申請日	承認日	令和4年度 会費免除	人数
令和3年2月福島県沖地震及び令和3年3月宮城県沖地震	宮城県	20210624	20210717	○	1名
令和3年8月12日に発生した大雨	広島県	20220120	20220326	○	1名

○制度の広報

JAMT マガジン及びホームページを通じて会員に広報した。

(8) 会館

屋上パラペットの排水層の水漏れについて、外壁と屋上を調査のうえ、防水工事等を行った。

以上

■参考資料は次ページからご確認ください。

《資料1 研修会等開催状況》

《資料2 支部運営》

《資料3 各種団体・学会 派遣一覧》

《資料4 委員会・部会・WG 設置状況》

《資料5 組織調査》

《資料6 会員数推移》

■ 参考資料 ■ 《資料 1 研修会等開催状況》

日臨技研修会等開催状況

日臨技認定センター

認定試験受験指定講習会・資格更新・育成研修会		
認定一般検査技師制度育成研修会（尿検査編）	令和3年8月1日～8月31日	日臨技 Web 研修会システム
認定一般検査技師制度育成研修会（その他の材料編）	令和3年9月1日～9月30日	日臨技 Web 研修会システム
認定一般検査技師制度資格更新研修会	令和3年10月1日～10月31日	日臨技 Web 研修会システム
認定心電検査技師制度 行列ができるスキルアップ研修会	令和3年6月14日～6月27日	日臨技 Web 研修会システム
認定心電検査技師育成研修会	令和3年8月2日～8月31日	日臨技 Web 研修会システム
認定心電検査技師資格更新研修会	令和3年8月2日～8月31日	日臨技 Web 研修会システム
認定臨床染色体遺伝子検査師制度育成研修会	令和3年9月1日～9月25日	日臨技 Web 研修会システム
認定臨床染色体遺伝子検査師制度スキルアップ研修会	令和3年10月1日～10月25日	日臨技 Web 研修会システム
認定認知症領域検査技師制度 日本認知症予防学会併設 JSDP 技師講座（1日コース：資格未取得者対象） 20 単位	令和3年7月12日～7月28日	日臨技 Web 研修会システム
認定認知症領域検査技師制度 日本認知症予防学会併設 JSDP 技師講座（1日コース：資格更新のためのセミナー） 20 単位	令和3年7月12日～7月28日	日臨技 Web 研修会システム
認定認知症領域検査技師制度 JSDP 技師講座 （2日コース） 40 単位	令和3年9月1日～10月1日	日臨技 Web 研修会システム
認定認知症領域検査技師制度 指定講習会 （2日コース） 30 単位	令和4年2月1日～2月28日	日臨技 Web 研修会システム
認定病理検査技師制度 指定講習会	令和3年8月1日～8月31日	日臨技 Web 研修会システム
認定病理検査技師制度 資格更新指定講習会	令和3年9月1日～9月30日	日臨技 Web 研修会システム
	令和3年10月1日～12月31日	中止

<p>認定病理検査技師制度 スキルアップ Web 研修会 資格更新指定講習会</p> <p>令和3年度認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 第1回指定講習会</p> <p>令和3年度認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 第2回指定講習会</p> <p>医療技術部門管理資格制度 夏集合研修 テーマ「医療版ロジカルシンキングをマスターする」</p> <p>医療技術部門管理資格制度 秋集合研修 テーマ「医療機関の内部環境分析と外部環境分析をマスターする」</p> <p>認定救急検査技師制度 指定講習会</p>	<p>令和3年9月15日～10月15日</p> <p>令和3年11月7日</p> <p>第1回：令和3年8月7日～8月8日、第2回：令和3年8月28日～8月29日</p> <p>第1回：令和3年11月6日～11月7日 第2回：令和3年11月20日～11月21日</p> <p>8月1日～9月30日</p>	<p>日臨技 Web 研修会システム</p> <p>福岡国際会議場</p> <p>Web 開催</p> <p>Web 開催</p> <p>日臨技 Web 研修会システム</p>
--	--	--

認定試験		
<p>令和3年度 認定一般検査技師制度 第15回認定試験</p> <p>令和3年度 認定心電検査技師制度 第14回認定試験</p> <p>令和3年度 認定臨床染色体遺伝子検査師制度 第14回認定試験</p> <p>令和3年度 認定病理検査技師制度 第7回認定試験</p> <p>令和3年度 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度 第7回認定試験</p> <p>令和3年度 医療技術部門管理資格認定制度第2回認定試験</p> <p>令和3年度 認定認知症領域検査技師制度 第7回認定試験</p> <p>令和3年度 認定救急検査技師制度 第5回認定試験（通算8回）</p>	<p>令和3年12月5日(日)</p> <p>令和3年12月5日(日)</p> <p>令和3年12月5日(日)</p> <p>令和3年12月5日(日)</p> <p>令和3年12月5日(日)</p> <p>令和3年12月25日(土)</p> <p>令和3年12月5日(日)</p> <p>令和3年12月5日(日)</p>	<p>幕張メッセ国際会議場</p> <p>幕張メッセ国際会議場</p> <p>幕張メッセ国際会議場</p> <p>幕張メッセ国際会議場</p> <p>幕張メッセ国際会議場</p> <p>Web 開催</p> <p>幕張メッセ国際会議場</p> <p>幕張メッセ国際会議場</p>

組織強化

地域ニューリーダー育成研修会（第7回）	2022年3月2日	Web 開催
---------------------	-----------	--------

教育研修

令和3年度 職能拡大推進事業 Web 講習会 糖尿病療養指導における臨床検査技師の活躍のため	4月12日～5月10日	Web 開催
輸血テクニカルセミナー2021	9月18日	Web 開催

令和3年度 医療安全管理者養成講習会（基本コース）	10月1日～11月30日	Web開催（一部ライブ配信）
令和3年度 医療安全管理者養成講習会（アドバンスコース）	12月1日～12月24日	Web開催（一部ライブ配信）
令和3年度 職能拡大推進事業 PSG 研修会（第3回）	2月27日	Webライブ配信
令和3年度 職能拡大推進事業 臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修	3月13日	Webライブ配信

■ 参考資料 ■ 《資料2 支部運営》

1) 支部学会の開催 年2回

支部	開催日時 / 会場	参加人数	演題数
北日本	会期：令和3年11月1日（月）～30日（火）（Web開催） 会場：Web開催（岩手県） テーマ：「融和と協調」～じえねしす・じえねらる・じえねれーしょん～ 日臨技企画：「タスクシフトの本質と臨床検査技師の未来」宮島会長 「新しい『日臨技 品質保証施設認証制度』について」滝野専務理事 情勢報告：宮島会長	776	70
関甲信・首都	会期：令和3年10月9日（土）～11月8日（月）（Web開催） 会場：つくば国際会議場（茨城県） テーマ：「創造・進化」TSUKUBA200+1～変異や変化に対応すつべよ～ 日臨技企画：「タスクシフトの本質と臨床検査技師の未来」宮島会長 「新しい『日臨技 品質保証施設認証制度』について」滝野専務理事 情勢報告：宮島会長	794	88
中部圏	会期：令和3年9月25日（土）～10月24日（日）（Web開催） 会場：富山国際会議場（富山県） テーマ：「harmony」～次世代へ”進む検査 繋がる検査”～ 日臨技企画：「タスクシフトの本質と臨床検査技師の未来」宮島会長 特別企画：「タスクシフト/シェアに関する制度改正の経過と今後の対応」丸田副会長 「新しい『日臨技 品質保証施設認証制度』について」滝野専務理事 情勢報告：宮島会長	997	103
近畿	会期：令和3年11月27日（土）～12月10日（日）（Web開催） 会場：福井大学医学部附属病院（福井県） テーマ：エビデンスを導く臨床検査～検査の歴史に誇りをもって 近畿60年～ 日臨技企画：「タスクシフトの本質と臨床検査技師の未来」宮島会長 「新しい『日臨技 品質保証施設認証制度』について」滝野専務理事 情勢報告：宮島会長		
中四国	会期：令和3年12月3日（金）～26日（日）（Web開催） 会場：岡山コンベンションセンター（岡山県） テーマ：いどむ!!その先にみる未来は… 日臨技企画：「タスクシフトの本質と臨床検査技師の未来」宮島会長 「新しい『日臨技 品質保証施設認証制度』について」滝野専務理事 情勢報告：宮島会長		

九州	会 期：令和3年11月6日（土）～12月12日（日）（Web開催） 会 場：沖縄コンベンションセンター（沖縄県） テーマ：パラダイムシフト～臨床検査のさらなる挑戦～ 日臨技企画：令和3年11月6日（土）15時40分～16時40分 「タスクシフトの本質と臨床検査技師の未来」宮島会長 「新しい『日臨技 品質保証施設認証制度』について」滝野専務理事 特別企画：令和3年11月6日（土）14時30分～15時30分 「臨床検査技師教育制度の見直しについて」横地副会長 令和3年11月6日（土）もしくは7日（日） 「タスクシフト/シェアについて」丸田副会長 情勢報告：宮島会長	1,094	93
----	---	-------	----

2) 支部幹事会の開催 年2回

開催日時 / 会場		申請日
北日本	日時：令和4年2月25日（金）18時～20時 場所：Web会議	0203
中部圏	日時：令和3年11月3日（水）13時～15時 場所：Web会議	0921
	日時：令和4年2月5日（土）13時～15時 場所：Web会議	1221
近畿	日時：令和4年3月5日（土）18時～20時 場所：Web会議	0225
九州	日時：令和3年11月5日（金）16時30分～17時30分 場所：沖縄コンベンションセンター（Web併用）	1019

.3) 支部内連絡会議

中部圏	日時：令和3年7月3日（土）13時～14時 （学術部門長） 令和3年7月3日（土）14時～16時 （支部幹事） 場所：Web会議	0615
九州	日時：令和4年2月5日（土）14時～17時 場所：Web会議	0131

団体・学会	役職名	理事 評議員	R2-3 派遣役員	
日本衛生検査所協会	衛生検査所業公正取引協議会運営委員	2	横地常広 深澤恵治	
日本医療技術者団体連絡協議会	会長 = 日臨技 経理 = 視能訓練士 事務 =	1	宮島喜文	
医療関連サービス振興会	評議員	1	横地常広	
	衛生検査所専門部会・調査指導中央委員会 副委員長	1	横地常広	
	衛生検査所専門部会委員	1	深澤恵治	
	医療機器保守点検部会委員	1	深澤恵治	
日本臨床検査標準協議会 (JCCLS)	理 事	2	長沢光章 滝野 寿	
	ISO/TC212 国内検討委員会(団体委員)	1	滝野 寿	
	WG 1 : 臨床検査室における品質と能力	3	篠原克幸 下田勝二 滝野 寿	
	WG 4 : 微生物検査と分子診断	1	長沢光章	
	WG 5 : 検査室のバイオリスクマネジメント	1	長沢光章	
	教育・出版委員会	基準範囲共用化委員会	2	荒木秀夫 滝野 寿
		標準採血法検討委員会	1	益田泰蔵
		用語委員会	1	益田泰蔵
	認証評価委員会	認証評価委員会	1	滝野 寿
	臨床検査振興協議会	役員	副理事長	5
監事 / 理事				深澤恵治
診療報酬委員会		診療報酬改定に関する小委員会	2	丸田秀夫 益田泰蔵
		診療報酬制度に関する小委員会	1	深澤恵治
医療政策委員会		臨床検査の品質・精度管理に関する小委員会	1	横地常広
		在宅医療における臨床検査の小委員会	1	深澤恵治
		将来ビジョン委員会(仮称)	2	横地常広 深澤恵治
		大規模災害対策委員会	2	深澤恵治 安部史生
		遺伝子関連検査に関する小委員会	2	滝野 寿 加藤智行
		感染症対策小委員会	2	長沢光章 三澤成毅
広報・編集委員会		2	深澤恵治 益田泰蔵	
チーム医療推進協議会	理事	1	横地常広	
	代議員 補交代議員	1	深澤恵治	
日本臨床検査医学会	HbA1c適正運用機構	1	滝野 寿	
日本臨床検査同学院	POC測定認定士審議会	1	深澤恵治	
医療機器センター	評議員	1	横地常広	
公益財団法人 結核予防会	結核研究奨励賞選考委員会委員	1	深澤恵治	
日本糖尿病学会	糖尿病に関する検査の標準化に関する委員会	1	横地常広	
CRC あり方会議支援委員会	支援委員	1	横地常広	
	21回学会プログラム委員 / 22回学会プログラム委員	1	柳沢由紀 / 池田律子	
日本認知症予防学会	理事	1	深澤恵治	
日本医療検査科学会	POC技術委員会	2	竹浦久司 滝野寿	
日本適合性認定協会	臨床検査室 技術委員会	1	滝野 寿 代理人 横地常広	
日本栄養療法推進協議会	理 事	1	長沢光章	
	評議員	2	益田泰蔵 深澤恵治	
	認定委員会委員	1	深澤恵治	
	認定基準策定委員会委員	1	長沢光章	
日本輸血・細胞治療学会	輸血検査に係る臨床検査技師への「共同事業協議会」	2	長沢光章 白波瀬浩幸	
特定非営利活動法人 日本病理精度保証機構	副理事長	1	片山博徳	
	理事		古屋周一郎	
	代表		浅野 敦	
	企画・運営委員会		浅野 敦	
	評価判定小委員会		浅野敦 阿部 仁 青木裕志 瀧川直治 山下和也	
一般社団法人日本臨床検査学教育協議会	監事	1	上原昭浩	
公益社団法人日本腫瘍学会	がんゲノム医療従事者事業がんゲノム医療コーディネーター養成委員会		滝野 寿	
中央医療事故調査等支援団体等連絡協議会			根本誠一	
公益財団法人黒住医学研究振興財団	評議員	1	横地常広	
一般社団法人日本医療安全調査機構	社員代表者	1	宮島喜文	
	「センター調査」個別調査部会 統括責任者		深澤恵治	
認定検査技師機構	副理事長	1	宮島喜文	
	事務局長	1	長沢光章	
	認定輸血検査技師制度協議会 同 審議会	委 員	1	長沢光章
	認定臨床微生物検査技師制度協議会 同 審議会	委 員	2	白波瀬浩幸 宮原祥子
	サイトメトリー技術者認定協議会 同 審議会	委 員	1	宮島喜文
	認定血液検査技師制度協議会 同 審議会	委 員	2	白波瀬浩幸 中川英二
	認定血液検査技師制度協議会 同 審議会	委 員	1	丸田秀夫
海外	Asia Association of Medical Laboratory Scientists(AAMLS)	理 事	1	宮島喜文
	International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS)	理 事	1	片山博徳
	国際医療技術交流財団(JIMTEF)	理 事	1	横地常広
	同 JIMTEF災害医療委員会	委 員	1	深澤恵治
	藤巻慎一 中川英二	2		
	手登根 稔	1		
	中川英二	1		

■参考資料■(資料4委員会・部会WG設置状況)

部門	担当	委員会・WG
実施事業	精度保証(標準化)	標準化部会
		品質保証施設認証制度WG
		POCT精度管理調査検討WG
		血液形態標準化WG
		精度管理評価基準検討部会
		バーチャルスライドを用いた精度管理調査WG
		体細胞遺伝子検査の精度管理調査に向けた検討WG
		直接ビリルビン測定値に光環境の影響検討WG
		免疫血清甲状腺項目検討WG
		病理FFPE材料を前提とした固定液標準化検討WG
		サポート(是正・改善・立入調査)検討WG
	SARS-CoV-2遺伝子PCR検査WG	
	精度管理	結果・方針・改善方針の検討審議会
		精度管理部会
		精度管理調査 臨床化学WG
		精度管理調査 免疫血清WG
		精度管理調査 微生物WG
		精度管理調査 血液WG
		精度管理調査 細胞WG
		精度管理調査 一般WG
		精度管理調査 生理WG
		精度管理調査 輸血WG
		精度管理調査 病理WG
		精度管理調査 遺伝子WG
		精度管理倫理審査会
	精度管理調査臨床化学用試料作製WG	
	実施事業共通	品質・精度保証委員会
	教育研修2	厚生労働省指定講習会WG
	教育研修3	教育研修委員会
		医療安全委員会
		臨床検査技師職能向上部会
		他団体職能拡大推進WG
		タスクシフトにかかわる病理検査業務検討WG
		病棟業務推進WG
		認知症WG
在宅業務推進WG		
災害対策WG		
臨地実習部会		
臨地実習指導者講習会WG		
臨地実習指導者ガイドライン作成WG		
国民医療向上・安全対策	季刊誌「ビバット」編集WG	
学術・技術振興	支部学術部長	
	支部学術部門員(生物化学分析部門・臨床化学分野)	
	支部学術部門員(生物化学分析部門・血清)	
	支部学術部門員(臨床一般部門)	
	支部学術部門員(臨床血液部門)	
	支部学術部門員(臨床微生物部門)	
	支部学術部門員(輸血細胞治療部門)	
	支部学術部門員(病理細胞部門)	
	支部学術部門員(遺伝子・染色体部門)	
	支部学術部門員(臨床生理部門・神経生理分野)	
	支部学術部門員(臨床生理部門・循環生理分野)	
	支部学術部門員(臨床生理部門・超音波分野)	
	支部学術部門員(臨床検査総合部門)	
	学術あり方検討WG	
	学会組織委員会	
	国際協力	国際活動WG
	学会	第70回日本医学検査学会運営部会
支部	支部長連絡会議	
	支部内連絡会議	
出版	支部幹事会	
	出版委員会	
認定	JAMT技術教本シリーズ 29「臨地実習技術教本」	
	JAMT教本シリーズ30「超音波200症例 ～US画像と採血データから読み解く～」	
	令和2・令和3年度 日臨技中央認定委員会	
	令和2・令和3年度 日臨技認定制度協議会	
	令和2・令和3年度 認定一般検査技師制度 審議会	
	令和2・令和3年度 認定一般検査技師制度 試験WG	
	令和2・令和3年度 認定一般検査技師制度 資格更新・研修会WG	
	令和2・令和3年度 認定臨床染色体遺伝子検査師制度 審議会	
	令和2・令和3年度 認定臨床染色体遺伝子検査師制度 試験WG	
	令和2・令和3年度 認定臨床染色体遺伝子検査師制度 資格更新・研修会WG	
	令和2・令和3年度 認定心電検査技師制度 審議会	
	令和2・令和3年度 認定心電検査技師制度 試験WG	
	令和2・令和3年度 認定心電検査技師制度 資格更新・研修会WG	
	令和2・令和3年度 医療技術部門管理資格認定制度 審議会	
	令和2・令和3年度 医療技術部門管理資格認定制度 試験WG	
	令和2・令和3年度 医療技術部門管理資格認定制度 資格更新・研修会WG	
	令和2・令和3年度 認定病理検査技師制度 審議会	
	令和2・令和3年度 認定病理検査技師制度 標準化WG	
	令和2・令和3年度 認定病理検査技師制度 試験WG	

その他事業

	令和2・令和3年度 認定病理検査技師制度 資格更新・研修会WG
	令和2・令和3年度 認定認知症領域検査技師制度 審議会
	令和2・令和3年度 認定認知症領域検査技師制度 試験WG
	令和2・令和3年度 認定認知症領域検査技師制度 資格更新・研修会WG
	令和2・令和3年度認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度 審議会
	認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度 試験・資格更新・研修会WG
	令和2・令和3年度 認定救急検査技師制度 広報WG
	令和2・令和3年度 認定救急検査技師 審議会
	令和2・令和3年度 認定救急検査技師制度 試験WG
	令和2・令和3年度 認定救急検査技師制度 資格更新・研修会WG
渉外	政策推進WG 診療報酬委員会
組織対策	組織運営委員会 組織強化部会 組織強化WG 支部体制強化WG 人材育成WG Web会議検討WG 定款・諸規程等改定委員会 定款・諸規程等改定WG 設立母体別代表者会議
組織運営	広報委員会 検査と健康展事業WG 会報JAMT・JAMTマガジン編集WG システム委員会 日臨技既存システム運用WG JAMTアプリ検討WG データ解析WG 理事会 執行理事会議 予算委員会 予算実績管理WG 人事委員会 報酬等審議委員会 利益相反委員会 表彰委員会 日臨技有功賞推薦WG 日臨技学術奨励賞推薦WG 令和2年度資格審査委員会 役員候補者選出委員会 令和3年度資格審査委員会委員兼議事運営委員会 日臨技創立70周年記念事業WG
事務管理	事務局体制WG 職員就業規則WG
共済	共済制度委員会 共済検討WG

■参考資料■ <<資料5 組織調査>>

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 組織調査 (令和4年3月31日時点)

(1) 会員種別免許別 性別・会員数

会員分類	免許別	男性	女性	入金会員数
正会員	臨床のみ	20,018	47,432	67,450
正会員	衛生のみ	113	61	174
正会員	両方取得	417	496	913
B賛助会員	両方未取得	1	0	1
正会員(免許申請中)	両方未取得	1	5	6
名誉会員	両方取得	4	0	4
合計		20,554	47,994	68,548

(2) 生年月日別 性別・会員数

生年月日	男性	女性	入金会員数
大正元.07.30～大正15.12.24	3	0	3
昭和元.12.25～昭和4.12.31	2	0	2
昭和5.01.01～昭和9.12.31	14	1	15
昭和10.01.01～昭和14.12.31	14	4	18
昭和15.01.01～昭和19.12.31	39	12	51
昭和20.01.01～昭和24.12.31	164	75	239
昭和25.01.01～昭和29.12.31	369	330	699
昭和30.01.01～昭和34.12.31	1,495	1,589	3,084
昭和35.01.01～昭和39.12.31	2,553	3,689	6,242
昭和40.01.01～昭和44.12.31	2,238	4,639	6,877
昭和45.01.01～昭和49.12.31	1,866	5,562	7,428
昭和50.01.01～昭和54.12.31	1,638	5,605	7,243
昭和55.01.01～昭和59.12.31	1,959	5,843	7,802
昭和60.01.01～平成元.12.31	2,721	5,735	8,456
平成2.01.01～平成6.12.31	3,071	7,714	10,785
平成7.01.01～平成11.12.31	2,382	7,136	9,518
平成12.01.01～平成16.12.31	26	60	86
合計	20,554	47,994	68,548

(3) 入会年度別 性別・会員数

入会日	男性	女性	入金会員数
昭和27～昭和29年度	6	0	6
昭和30～昭和34年度	7	1	8
昭和35～昭和39年度	16	3	19
昭和40～昭和44年度	49	17	66
昭和45～昭和49年度	149	63	212
昭和50～昭和54年度	348	280	628
昭和55～昭和59年度	1,332	1,046	2,378
昭和60～平成元年度	1,727	2,035	3,762
平成2～平成6年度	1,838	3,058	4,896
平成7～平成11年度	1,366	3,129	4,495
平成12～平成16年度	1,449	4,000	5,449
平成17～平成21年度	2,145	6,305	8,450
平成22～平成26年度	3,616	9,115	12,731
平成27～令和元年度	4,817	14,133	18,950
令和2～令和6年度	1,689	4,809	6,498
合計	20,554	47,994	68,548

(4) 病床数別 施設数・会員数

病床数範囲	施設数	入金会員数
なし	1,719	7,522
1～19	212	399
20～99	1,077	2,849
100～199	1,538	7,111
200～299	740	5,761
300～499	852	13,865
500～699	276	8,959
700～999	93	4,691
1000以上	42	2,837
未記入	1,184	3,140
不明	0	0
自宅	0	11,414
合計	7,733	68,548

(5) 施設形態別 施設数・会員数

施設形態	施設数	入金会員数
一般病院Ⅰ(特定機能病院)	150	6,807
一般病院Ⅱ(地域医療支援病院)	585	14,143
一般病院Ⅲ(機能指定無し)	3,827	25,022
精神科病院	368	690
療養所(一般)	65	225
療養所(結核)	13	78
診療所(有床)	190	376
診療所(無床)	949	1,795
検診センター	146	1,121
健診センター	149	812
歯科(病院)	6	14
歯科診療所	1	1
研究所	80	259
保健所	108	188
血液センター	43	193
学校	155	841
衛生検査所	591	3,958
製菓会社	36	48
医療機器会社	48	82
その他	214	472
未記入	9	9
不明	0	0
自宅	0	11,414
合計	7,733	68,548

(6) 経営主体別 施設数・会員数

経営主体	施設数	入金会員数
文部科学省Ⅰ(大学)	83	2,442
文部科学省Ⅱ(その他)	42	606
厚生労働省Ⅰ(大学)	3	16
厚生労働省Ⅱ(その他)	161	2,086
労働者健康安全機構	32	645
その他の省庁	52	323
都道府県	341	3,694
市町村	644	6,626
日赤(赤十字)	136	2,426
済生会	80	1,422
北海道社会事業協会	5	40
厚生連	115	2,065
国民健康保険団体連合会	3	12
JCHO	14	195
健康保険組合及びその連合会	22	334
共済組合及びその連合会	38	601
国民健康保険組合	5	12
公益法人	492	4,666
医療法人	3,410	14,220
学校法人	207	4,589
民間企業	706	3,954
その他の法人	582	5,200
個人	550	943
旧三公社	0	0
未記入	10	17
不明	0	0
自宅	0	11,414
合計	7,733	68,548

(発行日：令和4年4月13日)

■参考資料■ 《資料6 会員数推移》

令和3年度と過去5年度の入金会員数推移

所属都道府県技師会	平成28年度 (H29/3/31)	平成29年度 (H30/3/31)	平成30年度 (H31/3/31)	令和元年度 (R2/3/31)	令和2年度 (R3/3/31)	令和3年度 (R4/3/31)
01 北海道	3,063	3,118	3,190	3,227	3,235	3,274
02 青森県	614	634	618	632	636	636
03 岩手県	552	571	565	581	583	576
04 宮城県	1,044	1,080	1,096	1,126	1,133	1,141
05 秋田県	589	588	590	596	586	580
06 山形県	610	605	611	615	613	629
07 福島県	1,096	1,109	1,120	1,137	1,142	1,151
15 新潟県	1,336	1,357	1,388	1,387	1,373	1,377
99 日臨技	85	109	132	146	119	104
[北日本支部]	8,989	9,171	9,310	9,447	9,420	9,468
08 茨城県	1,201	1,221	1,256	1,296	1,314	1,340
09 栃木県	888	926	941	969	983	1,009
10 群馬県	991	1,023	1,036	1,069	1,097	1,110
11 埼玉県	2,753	2,912	3,042	3,183	3,253	3,371
19 山梨県	457	472	469	491	498	500
20 長野県	1,334	1,360	1,383	1,393	1,406	1,425
99 日臨技	211	271	385	499	436	400
[関甲信支部]	7,835	8,185	8,512	8,900	8,987	9,155
12 千葉県	2,041	2,105	2,182	2,242	2,332	2,413
13 東京都	5,539	5,809	6,125	6,451	6,599	6,903
14 神奈川県	3,305	3,364	3,422	3,492	3,566	3,691
99 日臨技	473	620	882	1,097	959	856
[首都圏支部]	11,358	11,898	12,611	13,282	13,456	13,863
16 富山県	563	574	576	568	571	581
17 石川県	698	703	713	724	725	723
21 岐阜県	830	846	860	895	900	939
22 静岡県	1,642	1,673	1,722	1,775	1,833	1,885
23 愛知県	3,177	3,269	3,354	3,460	3,524	3,630
24 三重県	673	690	707	704	721	746
99 日臨技	158	203	253	302	270	242
[中部圏支部]	7,741	7,958	8,185	8,428	8,544	8,746
18 福井県	386	392	390	390	390	407
25 滋賀県	537	565	583	599	624	659
26 京都府	1,025	1,093	1,163	1,202	1,229	1,238
27 大阪府	3,111	3,249	3,473	3,629	3,669	3,853
28 兵庫県	1,796	1,875	1,955	2,091	2,176	2,259
29 奈良県	603	613	626	634	656	679
30 和歌山県	345	360	361	378	389	396
99 日臨技	424	492	672	850	749	706
[近畿支部]	8,227	8,639	9,223	9,773	9,882	10,197
31 鳥取県	327	332	333	333	346	361
32 島根県	433	441	446	452	453	452
33 岡山県	1,365	1,401	1,425	1,443	1,434	1,475
34 広島県	1,750	1,789	1,819	1,862	1,866	1,877
35 山口県	793	795	797	809	817	843
36 徳島県	437	442	435	446	434	441
37 香川県	669	685	701	702	720	727
38 愛媛県	799	803	814	822	820	845
39 高知県	657	657	679	670	665	674
99 日臨技	96	129	157	182	140	120
[中四国支部]	7,326	7,474	7,606	7,721	7,695	7,815
40 福岡県	3,183	3,243	3,355	3,473	3,503	3,538
41 佐賀県	323	315	321	329	327	337
42 長崎県	857	869	878	884	898	915
43 熊本県	1,193	1,221	1,266	1,338	1,356	1,385
44 大分県	760	787	800	821	829	848
45 宮崎県	475	478	484	496	506	519
46 鹿児島県	611	619	649	692	708	735
47 沖縄県	778	826	842	853	856	849
99 日臨技	149	176	230	241	195	178
[九州支部]	8,329	8,534	8,825	9,127	9,178	9,304
98 その他(支部不明)						
99 日臨技(支部不明)		1	1	1		
[支部不明]	0	1	1	1	0	0
【合計】	59,805	61,860	64,273	66,679	67,162	68,548